

2021-05 経営協議会議事概要

日時 令和3年11月19日（金）13:30～15:00

場所 地域イノベーションホール

【一部の構成員等（※を付した者）はオンラインで出席】

出席者 伊藤学長（議長）

志田、高木、二井、廣田、*眞崎、丸山、向井、横山、渡辺 各学外委員

鶴原、緒方、尾西、今西、西岡、伊佐地、木下 各学内委員

欠席者 末松 学外委員

田中 学内委員

陪席者 服部、小川 各監事

◆新委員紹介

冒頭、伊藤学長から、新規構成員の廣田恵子委員の紹介があった。

◆議事概要の確認

2021-3（7月16日～7月26日開催）及び2021-4（9月17日開催）の議事概要（案）について、了承された。

I 審議事項

1. 令和3年度目的積立金を財源とした予算配分（案）について

尾西理事から、「資料：審-1」に基づき、令和3年度学内予算配分案のうち、本年10月28日付けで文部科学大臣承認を受けた目的積立金と前年度に承認を受けた目的積立金の残金を、①正門周辺整備事業、②第一食堂及びクラブハウス新設事業に配分することについての説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

また、上記2件とすでに予算配分済の附属病院改修事業の計3件について、目的積立金の繰越手続を行い、次年度以降に支出する予定である旨の説明があった。

<主な意見>

- 自家発電として太陽光発電や雨水を利用した水力発電設備、蓄電可能なバッテリーなど、低炭素社会に向けて大学内に発電所を整備することも考えていただきたい。
また、災害に備えてある程度独立した発電設備を持つべきと考える。
- コロナ禍後を見据えた学生の交流の場となる施設や安全性に配慮した視認性が高い正門の整備は、非常に良い計画だと思う。
- 当初予算で計画のなかった事業について、目的積立金を取り崩して設備投資するというのは、令和2年度の余剰金が投資に使われるという解釈か。
→ 本来は目的積立金が残らない形で期間中に計画を立てるのが望ましいが、新型コロナウイルス感染症拡大のために執行できなかったこともあり、新たに投資することになった。
- 学生向けに整備する施設は、クラブ活動を行う学生が集えるように休日も開放するのが望ましいのではないか。

- 三重大学らしい環境に配慮した建物・設備について、中長期的に議論が必要である。

2. その他 なし

II 報告事項

1. 特定監査結果報告（不正防止に関する制度の整備・運用状況）について

監査課長から、「資料：報－1」に基づき、令和3年の医学部附属病院（臨床麻酔部）での不正事案の発生を受けて、全学的な不正防止に関する制度の整備・運用状況の特定監査について結果の報告があった。

<主な意見>

- 特に倫理やコンプライアンス意識といったものは継続して繰り返し研修を行い、定着させていくことが重要である。

2. その他

(1) 次回開催について

1月21日（金）15：00～

III 意見交換

意見交換に先立ち、伊藤学長から、今回は学外者から見た三重大学の課題や三重大学が社会に果たすべき役割について議論したいため、あらかじめ学外委員から提案いただいたテーマのうち2件について意見交換を行う旨の説明があった。

1. レジリエント社会の実現に向け三重大学が果たすべきこと

はじめに、横山委員からテーマの提案理由について説明があり、続いて、酒井副理事及び伊佐地副学長から「資料：意－1」に基づき、三重県と共同で設置している「みえ防災・減災センター」の取組みと医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症第5波への対応状況について説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- みえ防災・減災センターの取組みのひとつである「人材育成」については、中高年層が中心となってしまうので、学生を取り込んでいく仕組みや、卒業後も防災意識を持つ学生を増やしていくことも重要ではないか。
- 災害後どのように復旧していくのが重要だと考えるが、災害復旧ボランティアの登録制や登録者数の把握は行われているのか。
- みえ防災人材バンクに登録したボランティアが被災地で対応しているが、この活動を三重県全体に拡げていくことが今後の課題であり、方策を検討中である。

- これだけしっかりした体制が作られ、いろいろ取り組まれているのだから、それをもっと発信していかなければならない。発信相手は教職員や学生、地域社会になると思うが、地域社会全体への発信は、自治体の力を借りないと難しいと思う。
- 災害時のボランティア派遣に関して、被災地への交通手段や現地での寝泊まり、食事などは、企業や金融機関を頼る方法もある。そのためには、先の委員の意見のとおり、体制や取組実績などを情報発信し、企業や金融機関の賛同を得ていく必要がある。
- これだけのことを三重大学だけで行っていくことは絶対に不可能であるため、まずは三重県と三重大学が協力して活動を深め、そこに企業、金融、マスコミ、医療などを包括的に連携させてシミュレーションができるレベルまで高めていくことで、三重県内のレジリエンスを高めることにつながっていくのではないかと。
- 新型コロナウイルス感染症への対応について、病床数の拡大や附属病院長のリーダーシップなど、三重県の中核病院としての取組は非常に心強かった。
- 災害時、障がい者や高齢者など社会的弱者と言われる方々は特に生命の危険にさらされるため、機会があればこれらの方々への対応についてもお聞かせいただきたい。

2. 三重大学の知の地域への波及について

はじめに、渡辺委員からテーマの提案理由について説明があり、続いて、伊藤学長から「資料：意-2」に基づき、前回の意見交換も踏まえて構想中の地域連携プラットフォームとそれに関係する学内組織について説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- シンクタンク機能について、三重大学がリードするのは非常に良いと思うが、大学の使命とは何かを考えると、まずは「教育」と「研究」である。最近の流れとして、大学にも社会貢献が求められているのは理解できなくもないが、大学の本質を認識した上での話ではないか。
- 三重県は、人と産業が集まる北部と過疎化が進む南部との間で格差が生じており、今後もそれが大きな課題になっていくと考える。新型コロナウイルス感染症により、情報通信の環境整備が一気に加速したので、これを活用して三重県内どこにいても高校生が三重大学に触れることができるような環境を作っていただきたい。
- 構想中の組織について、主体をしっかりと作り上げておかないと、実効性の伴わない組織になってしまうのではないかと。この組織を強化しようとするならば、常駐職員を配置し、常時機能する仕組みを作り、ニーズに対して実行力をもって応えていけるかを考えるべきである。
- 先ほどの意見交換のテーマにも関係するが、地域防災分野に関するプラットフォームについては、JMATやDMATなども関係してくるため、ぜひ医師会も加えていただきたい。

以上